

鎌倉市深沢地区街づくりガイドライン策定委員会《第2回》ご意見及び意見書への対応について

(塗りつぶし箇所については、委員会後の意見書の内容です。)

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
<u>まちづくりガイドラインの目的について</u>	<p>(第2回資料2-4：P1 まちづくりガイドラインの目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりガイドラインの目的について、地区のまち並み景観の形成のための誘導だけでなく、この地区と他の深沢地域とのリーディングプロジェクトとしての位置づけも重要と考えるため、目的に加えてほしい。 	<p>(第3回資料：P2 まちづくりガイドラインの目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご指摘の通り、ガイドライン策定の目的として、周辺を含めた深沢地区のリーディングプロジェクトとしての位置づけは重要と認識しており、<u>目的を追加しましたのでご確認ください。</u> <p>⇒記載内容（P2に下線部を追加）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本ガイドラインは、深沢地区が周辺の緑環境や歴史と調和し、環境に配慮された良好なまち並み景観を形成するとともに、<u>作られた新しいまちを、住民、事業者、行政等関係する多様な主体が協力して育てていくために、誘導を図ることを目的に策定するものです。</u> <u>深沢地区のまちづくり事業により、これまで分断されていた周辺地域が繋がることを踏まえ、人と人が繋がり、新しいコミュニティの形成とそのコミュニティによって、鎌倉市第3の拠点形成に資する深沢地区及び周辺の発展につなげていくための取り組み方策について示すため、本ガイドラインを策定します。</u> <u>本ガイドラインが、今後、周辺地域も含めた多様な主体が関係するまちの育成のあり方のモデルとなることを目指します。</u> <p>(第3回資料：P1 はじめに)</p> <ul style="list-style-type: none"> はじめにを作成し、これまでの委員会での皆様のご議論を踏まえて、まち、人、コミュニティ、歴史などを「つなぐ」ための取り組みや工夫をガイドラインへの想いとして伝えることとしました。

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
<p><u>つくったまちのマネジメントについて</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントについて、大方針の中に入れていくべきと考える。基本方針の中でも大きく打ち出すなど、構成の工夫をした方がいい。 ・つくった時が一番きれいな状態というまちづくりではなく、つくってから担い手がどのように空間の中に巻き込まれていくかというマネジメント計画が重要と考える。どうやったら、今までの深沢と関係性を保ちながら、新しい深沢、鎌倉らしさを出せるのか、ということ構成も含めて考えて作ってほしい。 ・再開発のまちづくり協議会などは、はじめはデベロッパーだけで始まり、そこにマンションの居住者や地権者なども加わってマネジメントにつながっている例がある。深沢でも、こういったマネジメントの見通しも今から考えた方がいいと思う。 ・深沢は大丸有の三菱地所のような大地主もないため、最終的には利用者や所有者が良くしていくことが重要。どういうしくみを作るのかがいいかを考えておくべき。 ・都市管理・運営の方針について、官民協働、周辺住民・事業者との連携など、管理・運営の大きな考え方を方針として定めるのがいい。 	<p>(第3資料：P3 まちづくりガイドラインの構成、P10 まちづくりガイドラインの運用方針、P12～18 都市基盤施設の計画指針、P19～21 建築物等の誘導指針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回委員会では、マネジメントについての重要性、マネジメントへの高い志を、委員の皆さまから示していただきましたので、第3回委員会においては、まちづくりのガイドラインの構成を見直し、まちづくりガイドラインの運用方針を大きな方針として位置づけましたのでご確認ください。 ・また、まちづくりガイドラインの運用方針(案)、都市基盤施設の計画指針及び建築物等の誘導指針内における未来へのつなぎ方(管理・運営等の考え方)についても提案させていただきますので、後程、議事事項として、ご議論をお願いします。
<p>ガイドラインの運用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの内容を、最終的に地区整備計画に位置付けるということだが、地区整備計画に書ききれない内容を、ガイドラインに作法的に盛り込んでいくことが重要と考える。つくる側として、どういう気持ちでつくるのか、また利用する側として、作られたものをどう使っていくのかということ、作法的に示していくべき。 ・具体的な内容はまちづくりの計画指針に定め、更に実際の運用をマニュアル、協定によって担保する。 	<p>(第3資料：P10 まちづくりガイドラインの運用方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを運用するための組織の必要性を認識しています。 ・第3回委員会において、組織の必要性、運用イメージ等、事務局としての案を提示させていただきますので、ご議論頂きたいと考えています。

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
「まちの将来像」のキーワードの整理について	<p>(第2回資料2-4：P6 まちの将来像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の議論を踏まえて、今回「個性」が「歴史」というキーワードに変更されたが、鎌倉らしさとしての「個性」は残した方がいいと考えるため、要素を8つに増やしてほしい。 	<p>(第3回資料：P4 まちの将来像のキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回委員会で、「個性」が分かりにくいというご指摘が多数あり、第2回委員会では、地区及び周辺の歴史資源や土地の記憶の継承としての「歴史」、地区及び周辺の固有の自然環境の活用と新たな緑と水環境の創出としての「緑・水」というように整理したところです。ご指摘の鎌倉らしさとしての「個性」については、主に「歴史」と「緑・水」に含まれていると考えており、複合的な要素からつくられると考えております。 ・よって、現時点においては、要素は変更しておりませんが、今後検討を進める中で再整理していくとともに、鎌倉らしさ、「個性」については大切な要素として理解し、ガイドラインの内容に反映していきたいと考えています。
使用する名称について	<p>(第2回資料2-4：P13 都市空間形成の方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用する地名や名称などは、鎌倉なので、カタカナではないようにしたい。例えば、シンボル道路は、深沢大路や須崎大路なども考えられる。 ・「まちかど広場」も「まちかど」でいいと思う。 	<p>(第3回資料：P7 都市空間形成の方針他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ表現は鎌倉らしくないというご意見もあるかと思います。 ・まずは、その空間の使われ方、設えのイメージを固めていただき、それにふさわしく、また分かりやすいネーミングがあれば、委員会の中でもご提案いただき、決めていければと考えています。
親水性について	<p>(第2回資料2-4：P21 公園の整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親水性について、深く議論していきたい。例えば、調整池があるので、そこからの水を道路レベルまで上げて、子供が落ちても安全な深さで道路の傍らを流れるような工夫をしてほしい。 	<p>(第3回資料：P18 近隣公園・調整池、街区公園の整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整池の設え方などの計画については、今後検討を行います。最終的には、事業費や維持管理コストなど検討したうえで、市で計画していきますが、調整池や公園の設えや活用などについて、ご意見やご要望がありましたら、参考にさせていただきます。
周辺地域との関係について	<ul style="list-style-type: none"> ・商業のイメージ、交流のイメージについて、周辺地域との関係の中で、双方にとってプラスとなる解を得ることが重要と考える。 ・国鉄の工場で分断された当地区を、今回事業によって再度つなげる視点としての歴史が重要であるため、周辺との関係性を計画に生かしていくべき。 	<p>(第3回資料：P1 はじめに、P2 まちづくりガイドラインの目的、P10 まちづくりガイドラインの運用方針、P16 まちかど広場の整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の通り、これまで分断されていた南北、東西を、事業によって繋ぎ、周辺地域との連携を強化していく、という視点を前面に出すよう、資料を修正・追加します。

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
まちづくりの基本方針について	<ul style="list-style-type: none"> ・新生鎌倉の街づくり <ul style="list-style-type: none"> ①鎌倉の歴史・文化につながる街づくり <ul style="list-style-type: none"> ⇒ランドマークとして「シンボルツリー」計画 大きなタブの木を中心に据え、鎌倉にふさわしい自然に溶け込んだ街路樹の中に表現する。 ②安全安心な住める街づくり <ul style="list-style-type: none"> ⇒観光都市鎌倉とは趣の違う住環境に優しく、便利でおしゃれな町並みのある街づくりを 	<p>(第3回資料：P12・13 シンボル道路沿いの整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シンボル道路」及び沿道空間について、緑化空間のイメージを整理しました。第2回委員会でのご意見のように、タブの木等、具体的な樹種や植栽の計画等について、ご提案頂ければ、ガイドラインへの反映等、今後のまちづくりの際の参考にさせていただきます。 (第3回資料：P23 安全・安心のまちづくり取組み指針) ・ご指摘の通り、安全安心な街づくりは重要だと考えており、ガイドラインにおいても、まちづくりの目標2で掲げています。 ・「安全・安心のまちづくり取組み指針」として考え方をまとめたほか、建築物や都市基盤施設の指針でも、安全・安心の視点を盛り込んだ誘導内容として整理しましたので、ご確認ください。
<u>都市空間形成の方針について</u>	<p>(第2回資料 2-4：P13 都市空間形成の方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業施設＝賑わいではないと考える。商業施設だから賑わい空間とするのではなく、住宅の中においても賑わいを取り込む等、空間のゾーニングについては再度検討してほしい。 	<p>(第3回資料：P7 都市空間形成の方針、P12～18 都市基盤施設の計画指針、P19～21 建築物等の誘導指針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賑わいや憩いのエリア設定については、土地利用をベースとした考えで位置づけています。 ・ただ、位置づけたエリアだけが賑わいや憩いのためのエリアとは考えておらず、ご指摘の通り、住宅においても賑わいが必要であり、賑わいを取り込むための空間のつくり方、建築物のつくり方等は、必要と考えます。 ・ご指摘の趣旨を踏まえ、都市空間形成の方針の記載を、目的に対応させる形で修正しましたのでご確認ください。 ・また、建築物等の誘導指針等でも、使いかたを想定した造りかたとして記載していますので、後程議事事項としてご議論いただければと思います。
	<p>(第2回資料 2-4：P13 都市空間形成の方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用と空間と建物を一体的に考えるというのは、みどりのこみちのあり方としても、地形を読み込み、昔の道をたどるなどして、その部分をこみちとしていくなどできれば、特徴のある緑の景観ができてくると思う。 	<p>(第3資料：P12～18 都市基盤施設の計画指針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の通り、「シンボル道路」だけでなく「ふれあいのみち」や「みどりのこみち」についても、空間の必要性(目的)、使いかた等をガイドラインで明記し、空間や景観の造りかたの誘導につなげてけるよう、記載しました。

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
都市環境の整備方針について	<p>(第2回資料 2-4：P15 都市環境の整備方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 風の道について、建物のシミュレーションも含めて実施し、柏尾川からの南西の風をどう呼び込むかを示してほしい。 	<p>(第3回資料：P12 シンボル道路沿い整備イメージ、19～21 建築物等の誘導指針、P22 低炭素都市づくり取組指針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「柏尾川から南西の風を地区内に取り込む」という方針は、鎌倉市周辺で年間を通して気象観測している風環境の結果と、一般的に河川や道路、空閑地が風の通り道となるという事象をもとに、風を地区内に効果的に取り入れることを誘導していこうと考えているものです。 風を具体的にどう呼び込むかについては、実際の風の流れを年間を通して観測したうえで、建築物や植栽を配置し、シミュレーションする必要があります。シミュレーション結果は、建築物の配置、規模、形状等によって、細かく異なってきますので、ガイドラインでは、風を取り込むという思想をまちづくりの誘導指針の中で明記しましたので、ご確認ください。
	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針の3本柱があるが、後半の資料に都市環境のイメージ化が抜けているのは、今後加えるという認識でよいか。 	<p>(第3回資料:P12～23 まちづくりの誘導指針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回委員会では、道路やまちかど広場の整備イメージを議論の論点として資料に整理していました。 都市環境の整備方針を具体的に指針として示すために、まちづくりの誘導指針の中に記載していますのでご確認ください。
	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針に掲げられた安全・安心の視点として、まず、津波や地盤など災害の危険を周辺も含めて把握しておくべき。そのうえで、物流の視点も踏まえながら、防災拠点としていくことが大事。また、災害時の拠点としては、水と自立電源としてのエネルギーの確保が重要となってくる。平常時と災害時をあわせて、水とエネルギーの確保についてどういう基盤を整備したらいいかについて考えていく必要がある。 	<p>(第3回参考資料：P7 地区周辺のハザードマップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺地域も含めた災害時の危険性について、参考資料に整理しましたのでご確認ください。 ガイドライン作成にあたり、これを踏まえるとともに、今後、担当部署等との調整を行い、ガイドラインでの位置づけが必要な事項については明記したいと考えています。当該内容は第4回委員会の審議事項として予定しています。
	<ul style="list-style-type: none"> 便利で住みやすい街づくり ⇒モノレールだけでなくバス等の公共交通機関の整備等 	<p>(第3回資料：P9 都市環境の整備方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市環境づくりの基本方針「公共交通を中心とした移動しやすいまち」としてガイドラインに掲げており、今後まちづくりを進める中で、バス会社等関係機関との協議・調整を行いながら、具体的な整備内容等について検討したいと考えています。

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
<p><u>シンボル道路の整備イメージについて</u></p> <p>(第2回資料 2-4: P18 シンボル道路沿いの整備イメージ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> シンボル道路の景観としては植栽でイメージが変わる。10年先というよりも、50年、100年後も見据えて、何十年、何百年も育つタブの木など在来種のものを選んでほしい。 	<p>(第3回資料: P12・13 シンボル道路沿い整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市で整備する道路植栽については、景観形成や維持管理のしやすさなどを踏まえ、地域にふさわしい樹木を選定していくこととします。 民間によるセットバック空間で整備する道路植栽についても、景観形成や地域にふさわしい樹木を選定することを「都市基盤施設の計画指針」に記載しましたのでご確認ください。
	<ul style="list-style-type: none"> シンボル道路については、空間やアクティビティを主につくってほしい。 	<p>(第3回資料: P12・13 シンボル道路沿い整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> シンボル道路の使い方、整備イメージ等、委員会での意見を踏まえ、ガイドライン案として記載しています。 第3回委員会においても、具体的な使いかた、造りかたについて、ご意見頂きたいと思えます。
	<ul style="list-style-type: none"> 日本大通りは道路が主ではなく、主役は沿道の建物。道路は「地」であり「広場」という位置づけでデザインしている。若官大路とは少しニュアンスが違う。深沢は日本大通りタイプと思う。 	<p>(第3回資料: P12・13 シンボル道路沿い整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドラインでは、使いかた、造りかたと併せて、未来へのつながりかたとして、個々の場所に対しての管理運営の方向性を記載しました。内容についてご確認ください、またご提案いただければと思えます。
	<ul style="list-style-type: none"> シンボル道路について、セットバック部分を含む歩道空間の使い方が重要。カフェやワゴンセールを定期化するには、沿道一帯のにぎわい創出のためのマネジメント組織等が必要。(既成商店街と新たな商業施設の連携策として) 	<ul style="list-style-type: none"> 現段階では、市では、深沢地区を特例とした税制優遇などの策は考えていませんが、他事例での運用状況や委員会でのご意見を踏まえ、今後検討したいと思えます。
	<ul style="list-style-type: none"> セットバックは「規制」の一つであり、民地側にも相応のメリットが必要だろう。例えば、税制優遇策など。 	

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
<p><u>シンボル道路の整備イメージについて</u> (第2回資料 2-4: P18 シンボル道路沿いの整備イメージ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地権者の負担に甘えてセットバックとするのではなく、セットバック部分も公共用地としての道路空間として確保するには、資金的に難しいのか。 ・シンボル道路の並木を2列以上また、ランダムに配し、オープンスペースと歩道を融合的に使用する。車道と建築で作られる強いビスタを、その間となる歩道空間を、分節化したデザインとすることで、風景を生み出そう(近接性の強調)という提案をしたい。デザインの考え方のベースについては、オギュスタン・ベルク『日本の風景・西欧の景観』等によって補強できるのでは。次回委員会で説明を加えたい。(図面等添付あり) 	<p>(第3回資料: P12・13 シンボル道路沿い整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い空間を公共用地で確保するためには、土地区画整理事業の全地権者からの減歩という形で負担いただかないといけません。その中で、シンボル道路沿いに換地を受ける大きな地権者の方や、資金力のある民間事業者にセットバックとして土地を供出して頂くことを検討しています。 ・また、公共用地としての道路では、利用が制限されてしまいますが、民地であれば、利用の自由度が増すため、より賑わい形成等に寄与できる空間を創出できると考えています。 <p>(第3回資料: P19 シンボル道路沿い建築物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに反映できる事項については、反映したいと考えておりますが、詳細なデザイン、設計等については、次の段階で民間提案を受けて検討していく事項と考えております。 ・今回、指針では、「中高木(樹冠の直径1m以上)を連続的に配置し、事業者の創意工夫によって、個性的で美しい緑による沿道景観を演出します」という記載としました。
<p><u>シンボル道路の線形について</u> (第2回資料 2-4: P9 シンボル道路計画の変更について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路のつくり方も、地域をよく知る長老の意見を聞いたり、過去の地歴なども踏まえて、災害に備えた道路の線形とすることが重要と考える。 ・シンボル道路は、曲線にすると象徴性がなくなると思う。奥があるからシンボルとなり、直線として奥をつくってほしい。 ・ここには、奥といえる場所はないのではないか。 ・沿道の商業や土地利用との関係で賑わいを考えると、2つぐらい注目点となるカーブがあってもいいと思う。 ・直線と曲線の議論は、それぞれ何が良く何が悪いかという議論や機能の考慮をしないと決められない。 	<p>(第3回資料: P5 土地利用の基本方針、P12・13 シンボル道路沿い整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンボル道路については、新駅構想が決まらない現段階においては、県警との協議の結果、神鋼橋と連絡する現在の曲線の線形にならざるを得ません。新駅構想が決まれば、図に示した点線の直線となる予定です。 ・当委員会では、現在の曲線の線形を前提とした上で、シンボル性をどのように創出していくのか、どのような人が集まり、どのような活動(賑わい)が期待できるか等、シンボル道路の整備イメージを共有させていただき、それを踏まえたガイドラインでの誘導を行っていきます。

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
ふれあいのみちの整備イメージについて (第2回資料2-4:P19 ふれあいのみち沿いの整備イメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいのみちなども、周辺とのコミュニケーションを図るための空間とすることが大事、といった、これからつくるための方針を示していくのがいいのかもしれない。どうつくるのかではなく、周辺の人も含めてどうやって作っていくのかをガイドラインで決めていく方向もあるのではないか。 	<p>(第3資料:P10 まちづくりガイドラインの運用方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご指摘の通り、地区だけでなく周辺とのコミュニケーションは大事だと考えており、コミュニケーションが図れるようなつくり方、使い方をガイドラインに反映します。また、つくるだけでなく、それを将来につなげていくための組織づくりの必要性、誘導するための運用イメージについても、記載していますので、ご確認ください。
<u>まちかど広場について</u>	<ul style="list-style-type: none"> まちかど広場は、空中歩廊を有効に活用できると、空間に重層性が出てくると思う。 まちかど広場は、交差点部分に画一的に配置されている印象だが、セットバックを含む空地を有機的につなぐ様なオープンスペースの考え方が欲しい。むしろ「みどりのこみち」の入口や中間点にあった方が面白いかも…。 まちかど広場は、交差点部にベンチ等を配置したような広場とするのではなく、建築物の設えと一体的な空間の設えとし、広場の場所や大きさ等は、場所の特性に応じて工夫されるものと考えた方がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市では、安全な歩行空間として横断歩道を整備しますので、立体的な歩行空間は考えていません。道路を挟んで2つの建物内で行き来する必要性や利便性がある場合は、民間事業者等が立体的な歩行空間を計画する可能性はあると考えます。 <p>(第3回資料:P16・17 まちかど広場の整備イメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご指摘の通り、交差点部分を画一的にまちかど広場とするのではなく、建物の向きや敷地特性に応じた利用者の動線に合わせた形で、空間(広場)を確保することを、ガイドラインで誘導していきます。特に、シンボル道路沿いは賑わい空間として、地区の中と外との結節点においては、ゲート性や交流空間として提案させて頂いていますが、まちかど広場の位置や使い方、空間のつくり方については、地元の皆様で決めていくものとして、ガイドラインにまとめましたので、ご確認ください。
安心・安全なまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全なまちづくり ⇒街路灯・歩道・スクランブル交差点等の整備 自転車専用レーンより左折して道路に面した店舗等に入る場合の歩行者の安全性を確保するシミュレーションを考えた方がいいのでは。 	<p>(第3回資料:P12~23 まちづくりの誘導指針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご指摘の通り、安全・安心は重要な要素と認識していますので、歩道や街路灯等の整備や自転車利用者の歩行者に対する対策等について、まちづくりの誘導指針の中で明記し、計画への反映や民間事業者等への誘導を図っていきたいと考えています。 歩行者の安全性の確保のシミュレーションについては、建物の形状や入口部の位置によっても変わってきますので、現段階では行うことを考えていません。

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
周辺道路について	<ul style="list-style-type: none"> 周辺から人を呼び込むような商業施設を作るのであれば、周りの道路の整備も考えないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺道路、及び地区内の道路については、土地利用計画を踏まえ、将来交通量予測に基づき道路計画を行い、警察協議などを経て、現在の計画となっています。
商業施設を核とした周辺地域との連携について	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設について、まだ地域との関連性が見えない。事務局案では、周辺商店等と共存し、お互いに高め合うようなことを記載しているが、このようにうまくいかず、周辺が空洞化してしまうと思う。 周辺地域を含めた活性化を図ることが重要であり、そのための商業施設を持つてくる必要がある。例えば、周辺の商店では、高齢化や担い手不足が課題となっているため、地区内に共同駐車場をつくるなど、大型施設と地域が連携できるようなものを作ってほしい。周辺に目を向けると、庭を見せて人を呼び込むカフェや地元野菜を作っているとの連携なども考えられる。軽井沢ショッピングモールと旧軽商店街のように、周辺とも連携できるようにしたい。 地元商工農漁業との協業で活性化・賑わいを ⇒地産地消（鎌倉野菜等の朝市やイベントで） ⇒大型商業施設（大型スーパー、生鮮、日用雑貨、電気、家具等）と地元商業との融合で街づくりを このまちのテーマは、ウェルネスであり、商業拠点とはならないのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区を含め、周辺地域の人々の生活利便性の向上に寄与するような新たな商業施設の立地を誘導していきたいと考えています。 また、地区内だけでなく、周辺地域の商業の活性化を図ることは重要だと考えており、民間事業者へのヒアリングでも、事業者としても、連携や棲み分けは当然考えていくとのコメントをいただいています。 具体的な連携方策については、今後、商業事業者と既存の商店等、地域の皆様が主体となって進めて頂きたいと考えており、市として必要な役割についてはバックアップしたいと考えています。
事業について	<ul style="list-style-type: none"> 夜間人口 3,200 人のためのまちをつくるのか、鎌倉の新しい顔としてつくるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用計画では、住宅や商業施設、その他公共施設など複合的な土地利用を想定しています。その中で、鎌倉、大船に続く鎌倉市第3の拠点として、住民はもちろん、来街者にとっても健康で快適な生活を送るためのまちづくりを目指しています。
その他	<p>(第2回参考資料 2-1：P1 土地の歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 図とタイトルに書かれた年代が違っているのでは。 	<p>(第3回参考資料：P3 地区の歴史・土地利用の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な図面が入手できないため、一部削除しました。